

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2021年4月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2021年4月12日～4月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 122社
- 回収率 61.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の4月の状況を見ると業況DIは、前月より8.3ポイント改善の▲20.5となった。

2017年9月以来44ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲25.4、当月と比べ4.9ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2020年 11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 2021年5月～ 2021年7月
業況	▲42.3	▲41.0	▲46.0	▲47.6	▲28.8	▲20.5	▲25.4
売上	▲38.5	▲45.1	▲44.5	▲48.4	▲26.4	▲4.1	▲12.3
採算	▲35.3	▲37.7	▲43.7	▲43.5	▲31.2	▲17.2	▲23.8
仕入単価	▲17.2	▲14.8	▲16.6	▲25.0	▲34.4	▲36.9	▲39.3
販売単価	▲16.4	▲10.7	▲16.7	▲17.0	▲6.4	0.8	0.9
従業員	19.7	13.9	8.7	14.5	12.0	18.0	21.3
資金繰り	▲23.0	▲19.7	▲19.0	▲23.4	▲20.0	▲10.7	▲13.9

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2020年 11月	12月	2021年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 2021年5月～ 2021年7月
建設	▲18.5	▲22.2	▲22.2	▲16.7	▲23.4	▲17.3	▲27.6
製造	▲44.9	▲38.7	▲45.2	▲50.0	▲32.1	▲24.1	▲24.2
卸売	▲25.0	▲25.9	▲35.7	▲39.3	▲17.9	▲15.4	▲15.4
小売	▲57.9	▲61.1	▲58.8	▲52.9	▲50.0	▲20.0	▲26.6
サービス	▲70.8	▲73.7	▲78.3	▲80.0	▲30.5	▲26.1	▲34.8

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・同一労働、同一賃金への対応を含む「働き方改革」への本格的な取組に着手。受注状況は年度初頭であり公共工事の発・受注状況は不透明感あり。引き続き技術者の人員不足が課題。（総合工事） ・公共建築投資は一巡感があり、あと数年～10年待たねば過去5年の水準に戻らないと思う。（総合工事） ・一般戸建ての工事が昨年と比べ減少している。この先も減少傾向は止まらないのではないかと危惧している。業績は、他の定例的な業務の先食いにより、現在のところ悪化はないが先行きが不安である。人材については採用により充足してきたが、将来を見据えた若い人材の確保に取り組みたい。（設備その他） ・5月～7月は仕事が集中し、手数不足となりそうで外注を考えているが、他社も同様で厳しい。（建築）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年は5月以降、売上が大幅に下がっていった。そのため4月までの対前年の比較では今年の方が悪い結果であった。5月以降の比較は昨年、今年ともにコロナの影響下での比較になるが、今年もイベントの中止が多く業況が改善するかどうかはまだ見えない。（印刷・出版） ・昨年度は感染拡大に伴う店舗の休業等余儀なくされた時期があり、今年度の見通しは好転と判断する。（家具・木材） ・購入基礎資材の値上がりが続いている。レンジの長い見積り時の購入価格の設定が難しい。購入材だけでなく販売先市場の見通しも非常に不透明。（金属窯業等）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスによる影響で衛生用品への需要が高いため、若干ながら売上はよい。（繊維・衣服等） ・グループ会社合併後の取り扱い高等変化に着目したい。単体では例年通りとなる見込み。（飲食料品） ・灯油の需要期も終わり、仕入価格も落ち着きをみせている。（その他） ・昨年4月はコロナの関係で自粛ムードがあり大幅な減少になったため、今年4月は単月ベースでは増加だが、5月以降は厳しくなる気配。（機械鋼材）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・市内のカラオケ店クラスター以後、飲食店への売上の落ち込みが厳しい状況となっている。（食料品） ・4月に入り少しずつだが顧客の来客が戻ってきていたが、旭川でカラオケ店のコロナウイルスクラスターが発生以降、来店客がぱったりと止まり売上にブレーキがかかってしまい大変厳しい。（衣服見回品） ・4月末～5月GW商戦については、一昨年並みには戻らないだろう。状況によっては昨年並みの売上もあり得る。原油状況も不安定で厳しいが採算販売を徹底するしかない。（その他） ・コロナの影響で高齢者の来店が減少している。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスが全道に広がり旅行者の減少（特に海外の旅行者）により、ホテル宿泊者7割減少、ホテルリネン類の洗濯物又ホテル宿泊者、大型会場、宴会等の縮小によりテーブルクロス、おしぼり等大幅減少、採算も大幅に悪化している。（理美容・クリーニング） ・前年比では売り上げ増加の見込みではあるが、感染状況により旭川宿泊応援事業などが無くなると厳しいと思われる。（ホテル・旅館） ・多くの店でテイクアウト開始。出前業者も旭川に出店し、客の争奪合戦が激化。売上減。コロナ収束が見えず、GWの売上増も期待できない。（飲食） ・前年同月比で売上が増加しているが、コロナの影響が極めて大きかった時期と比べて増加しただけで、影響のなかった一昨年と比べると悪化傾向は収まっていない。特に都市間路線については、札幌市の感染者拡大の影響を大きく受けており、先行き不透明な状況が続くと思われる。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI9.6 ポイント改善、採算 DI0.6 ポイント悪化、仕入単価 DI5.0 ポイント悪化、販売単価 DI2.9 ポイント改善、資金 DI13.7 ポイント改善、従業員 DI14.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 6.1 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、総合工事 8 ポイント悪化、設備・その他 5 ポイント、建築業 43 ポイント改善となった。コロナ自粛で営業活動ができず困っているとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI31.9 ポイント改善、採算 DI25.5 ポイント改善、仕入単価 DI5.9 ポイント悪化、販売単価 DI6.9 ポイント改善、資金 DI10.9 ポイント改善、従業員 DI 横ばい。総じて業況 DI は 8.0 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、印刷・出版 7 ポイント、家具・木材 14 ポイント悪化、食料品 43 ポイント、金属窯業他 10 ポイント改善となった。3 か月見通し、予算ベース。業績は親会社の紙生産量次第との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI14.5 ポイント改善、採算 DI6.1 ポイント改善、仕入単価 DI0.8 ポイント改善、販売単価 DI0.7 ポイント改善、資金 DI1.1 ポイント悪化、従業員 DI6.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 2.5 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、その他 38 ポイント悪化、機械鋼材横ばい、繊維・衣服等 25 ポイント、食料品 29 ポイント改善となった。外食産業の不振影響有りとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI49.2 ポイント改善、採算 DI29.5 ポイント改善、仕入単価 DI1.2 ポイント悪化、販売単価 DI12.1 ポイント改善、資金 DI18.0 ポイント改善、従業員 DI13.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 30.0 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品、自動車横ばい、食料品 35 ポイント、その他 60 ポイント改善となった。新型コロナ第 4 波の影響有りとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI17.4 ポイント改善、採算 DI17.4 ポイント改善、仕入単価 DI 横ばい、販売単価 DI17.4 ポイント改善、資金 DI8.8 ポイント改善、従業員 DI13.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 4.4 ポイント改善となったが「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、整備業 60 ポイント悪化、理美容・クリーニング、運送横ばい、ホテル・旅館 33 ポイント、その他 15 ポイント、飲食 27 ポイント改善となった。新年度を迎えたが昨年に比べ、民間業務の受注が伸び悩んでいる。コロナ禍の中、元請けは少しでも経費を圧縮しようと外注を減らしていると思われるとの声も寄せられている。</p>